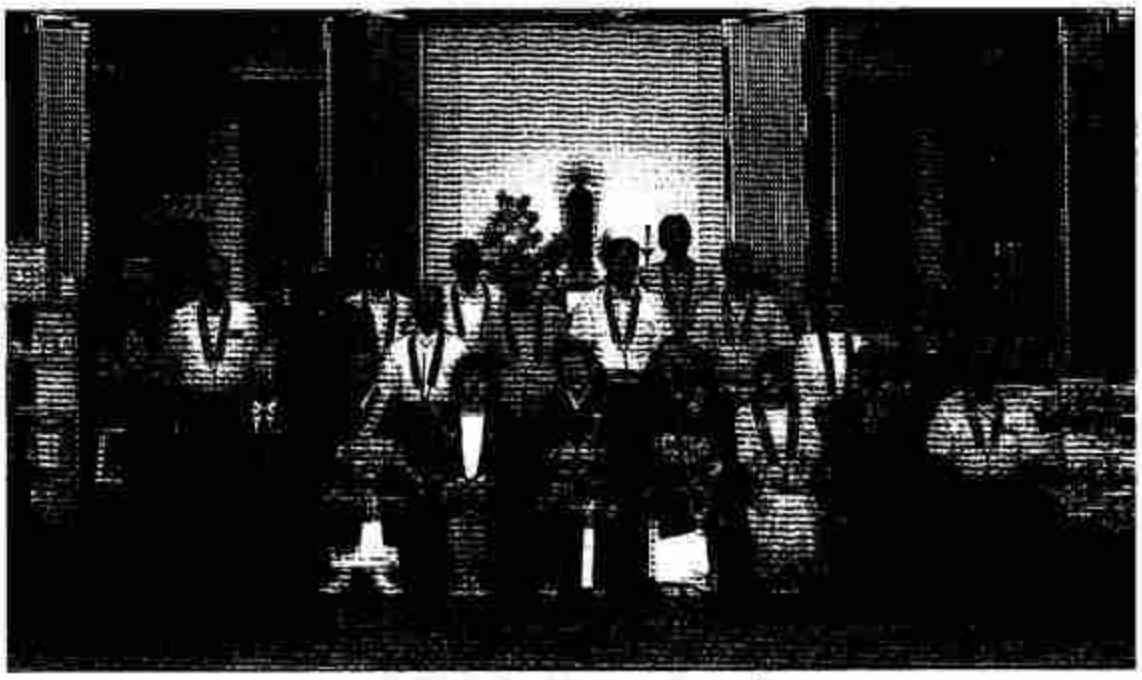


御動座法要　令和８年６月19日

『御動座法要』を勤めました

はい、浄福寺です。

浄福寺
門徒会発行
☎（025）536-2532
FAX（025）536-2674
jofukuji@alpha.ocn.ne.jp

修復に出しておりました本尊阿弥陀如来様が戻られましたので、寺族と役員とで「報恩講お引き上げ」前の６月19日に御動座法要を勤めました。

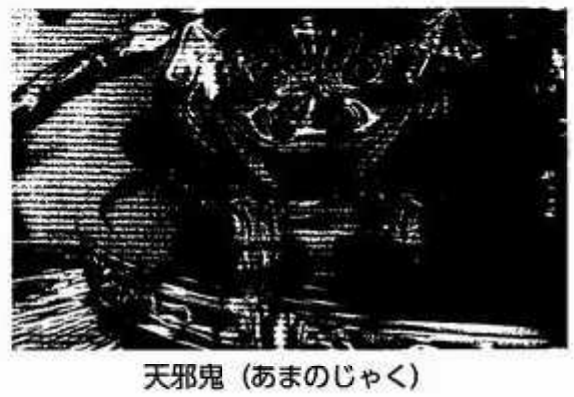
本当に綺麗になって戻って来られました。本体自体は洗浄だけですが、光背や台座などは金箔を貼り替えました。光背はプラチナ箔ということです。また、台座に彫られている「天邪鬼（あまのじゃく）」は、とても可愛いです。

来年の５月には、宮殿（くうでん）やお厨子（ずし）、そして新しく設置する「人天蓋（にんてんがい）」が飾られます。そうなると御本尊がお厨子に納められて近くで見られませんので、役員だけでも見て頂こうと思い、集合して頂きました。

この度の修復にご尽力を頂いております㈱京香さんは、全国の有名な寺院の仏具などを修復されている業者で、本願寺の国宝「唐門」も修復されています。

御本尊「阿弥陀如来」様は、光そのものです。目には見えませんが、私たちにはお浄土から光が届いているとお釈迦様がお示しされました。光とは、願いであり、導きであり、呼び声であり、そして波動であり、エネルギーです。

こんな話があります。目の不自由な版画家の棟方志功さんと言う方がおられました。作品はとてもほのぼのとして、色合いも綺麗なものばかりです。ある時志功さんはいくつかの作品を暁烏敏（あけがらすはや）師に見せたそうです。暁烏師は、大谷派の宗務総長にもなられた方で、宗教界ではとても有名な方です。暁烏師は、「どれどれ」と作品を手に取って「これはとてもいい作品だ」、「この作品は今一つ」と言って仕分けされたそうです。そのいい作品といわれたものは、志功さんも自信があったということで、あまりよくないと言われた作品は、志功さんも少し自信がなかったということでした。



天邪鬼（あまのじゃく）

実は暁烏師は当時全く目が見えなかったそうです。その暁烏師が何故仕分けすることが出来たのかというと、いい作品には波動を感じたのだそうです。

波動・エネルギー・光というものは目に見えませんので、それを形に表されたのが御本尊阿弥陀如来です。

「救いようのない者たちよ。すべては光の中にあり、今は煩悩によって、阿弥陀如来やお浄土の姿は見えないけれど、大いなる慈しみの光は、決してあきらめることなく、常にわが身を照らしてくださいます。」　『正信偈』より

平安時代から私たちの先人たちに寄り添い、願い、呼びかけ、見護って下さっているのが私たちの御本尊「阿弥陀如来」です。このたびの修復を通じて次の世代に繋げていけることを、大変嬉しく思っています。

全ての修復が終わって戻って来られたら、どんな本堂になるのか楽しみです。

落慶法要は来年の５月29日（土）、30日（日）です。皆様と一緒にお祝いをしたいと思いますので、今から予定しておいて下さい。





この度、畑があったところに庭を作りました。以前は、お斎に出す野菜を作るために畑仕事をしていたのですが、いつもお手伝いして下さった方が亡くなられたり、施設に行かれたりで、人の手が入らなくなりましたら、知らず知らずのうちにカヤが群生してしまいました。以前は、春には水仙、チューリップ、秋にはコスモスが咲き誇っていたのですが、それらもすべて咲かなくなってしまいました。

チガヤは別名「悪魔の地下の要塞」というのだそうです。そこで、土を入れ替えることにしました。防草シートを張り、その上に砂利を敷き詰めました。それだけではチガヤの侵入は防げないので、大きな石を四方に設置しました。せっかく大きな石を設置するならということで、中国の高僧、善導大師の説かれる「二河白道」の庭をつくりました。



善導大師の『観無量寿経疏』に説かれている比喩で、今まさに往生せんとする人を阿弥陀仏が迎えんとする一種の来迎図です。

「二河白道」とは、『仏説観無量寿経』に説かれている譬え話です。向こう岸は西方浄土、こちらの岸はこの世の世界を示しています。一人の旅人の後ろから飢えた獣や殺人鬼が追ってきます。旅人は当然逃げるのですが、着いたところが川岸でした。右側は荒れ狂う水の川、左側は火の川です。進めば火の川・水の川に飲み込まれ、戻れば殺される。もう絶体絶命と思った時に、向こう岸より「私を一心に念じ、こちらに来なさい。私が貴方を必ず護ります。」との呼び声。よく見たら、そこに白い道が伸びている。躊躇していると、今度はすかさず、後ろから「心を定めて行きなさい。決して災いはありません。留まれば死を待つのみです。大丈夫です。心配いりません。」と言う声。振り返れば、そこにはお釈迦様。旅人は、その白い道を渡ってお浄土にたどり着いたというお話です。

旅人とは、私たちのことで、後ろから追ってくる獣や殺人鬼は、寿命を表しています。水の川は、貪りや欲望。火の川は怒りを表しています。

多くの人たちは、命が限られているにもかかわらず、欲望と怒りに満ち満ちています。そんな私たちに大いなる光（教え・呼び声・願い・導き・救い）が届いているという譬え話です。

娑婆とお浄土の間に一本の白い道（御影石）を敷きました、水の川には、群馬県の三波石。火の川には、栃木県の赤石を置きました。

この度の庭を造って下さったのは、竹直にお住まいの小田続様です。小田さんからアドバイスを頂きながら、玉龍を植栽し、向こう岸のお浄土には石仏を置いて藤を植樹しました。その他に「竜舌蘭」という珍しい植物も植えました。たまたま知り合いの方から頂いたものです。「竜舌蘭」は30年に一度花を咲かせて、そのあとは枯れるとのことです。私は見ることが出来ませんが、若い方は見守っていてほしいです。また、この庭を見て「お浄土からの光」を感じて頂ければ嬉しいです。



竜舌蘭（リュウゼツラン）





本堂のお内陣に『六鳥』を描きました

この度の修復に合わせて、浄福寺本堂のお内陣に六鳥を描きました。

お釈迦様は、『仏説阿弥陀経』の中で「極楽浄土」の世界の様子を次のように述べておられます。

「舎利弗よ。かの国には、常に、種々の奇妙なる雑色の鳥あり、白鵠・孔雀・鸚鵡・舎利・迦陵頻伽・共命の鳥なり。このもろもろの鳥、昼夜六時に、我雅の音を出す。その音は、五根・五力・七菩提分・八聖道分、かくのごときらの法を演暢す。その土の衆生は、この音を聞きおわりて、みな、ことごとく仏を念じ、法を念じ、僧を念ず。」

また、天才発明家といわれたニコラ・テスラ（1856～1943）は、

「すべての物質は、「光」から生まれた。すべてのエネルギーは「光」である。暗闇の中に広大な「光」は存在している。始まりも終わりもない。「光」は「音楽」のようなもの。音符そのもの。静寂の中で奏でられている。これをゼロ・ポイント・エネルギー（見えないエネルギー）と言う。」

と、述べています。とても興味深いですね。

本堂がいつも『光』に包まれて、音楽が奏でられている場所であるようにという思いから、浄福寺の内陣にその六鳥を描いていただきました。この六鳥は、実は、本願寺で勤まる「御正忌報恩講法要」に出勤した際に、お礼として頂いた華葩を参考にしてデザインしました。

皆様方に愛される本堂であってほしいと思っています。

住職



この度の修復工事にあたり

像丈2・26尺（約70㎝）、緻密な年輪を有する上質な檜材を使った寄木造りとなっています。仏顔はふくよかで玉眼形式、また内部は内繰りが施されており確かな腕をもつ仏師の作だと感じられます。また螺髪、両手、足の劣化具合は平安期からという長い年月特有の重みと風格を醸し出しております。

今回の修復にあたり、仏像に込められた仏師の想い、平安期からの歴史に込められた檀家さんの願いや祈りが込められたと思いますと自然と背筋が伸び、修復作業にも熱が入りました。

修復は保存修復法に則り、当初の風合いを損ねることの無いよう細心の注意を払い進めました。両腕を解体し、欠失部や小動物による欠損部、剥ぎ目のひび割れ等の補修を行い、補修箇所はどこを直したのかがわからないよう風合い合わせを施しました。

次の修復は数百年後になるかと思いますが、その時の職人に恥ずかしくない修復をさせて戴いたつもりです。どうかこのお姿が永遠に続き、世を照らし続ける事を心より願っております。

㈱京香　齋藤正彦

報恩講前の清掃奉仕の御礼と次回のお願い





小山 佳野さん（3区）　撮影

6月14日に報恩講前の清掃奉仕を実施いたしました。

この度は、柿崎地区以外の潟町2名・岩野古新田3名　竹直1名・米山町1名・下中条1名・山谷から1名が参加して下さいました。その他に役員の方々と寺族で実施いたしました。少人数であったにも関わらず、皆様一生懸命に清掃作業をして下さいました。心より感謝し御礼申し上げます。ありがとうございました。

次回は、年末のお煤払い清掃奉仕を12月13日（日）9時より実施いたします。出羽区・曙区・1区の皆様方にお願いする予定です。

何卒、よろしくお願い申し上げます。

「手しごと・手づくり」柿崎・上越作品展のご案内



今年の「手しごと・手づくり」展は、浄福寺で開催されます。期日は10月2日（金）～4日（日）です。多くの方のお越しを心よりお待ちしています。

駐車場は浄福寺の境内ですが、芝生を傷めないようにご配慮下さい。

落語会のご案内



主催浄福寺『よもやま話』実行委員会

入場無料ですが、申し込みが必要です。

詳しいことは、浄福寺536-2532または角張寛美様536-2656まで

記

日　時　令和8年11月3日（火）
午後2時開演（1時30分開場）
午後4時散会

出　演　落語
立川流　立川らく萬（新潟県出身）
新潟大学落語研究部　ゑちご亭志し琳
遊求亭桜庵

申込みメ切　10月23日（金）　先着80名

有縁講



「第68回『有縁講』のご案内

今年も赤倉ホテルで開催されます有縁講に参加致します。左記の日程で開催されます。毎回参加されている方、以前に参加されたことのある方、まだ参加したことのない方など大歓迎です。「温泉で身体の垢を取り、法話で心の垢をとりのぞこう」というキャッチフレーズのもと、皆様方のご参加を心よりお待ち申し上げます。

写真は夕食懇親会での内藤喜美子様（右）と内藤トミ子様（左）

記

期　日　令和8年11月12日（木）～13日（金）

費　用　25,000円

持ち物　12日の昼食　お念珠　着替え　洗面道具
常備薬　保険証　マスクなど

集合場所　12日柿崎地区公民館10時出発
13日柿崎地区公民館16時半頃到着

宿泊場所　赤倉ホテル
（☎025-87-2001）
二日目は、糸魚川市徳正寺様の参拝（前坊守の姉の寺院）と糸魚川の町なか散策を予定しています。

申込みメ切　10月31日　定員25名

第14回『チャリティーコンサート in 浄福寺♪』のご案内



今年も皆様に元気と希望をお届けしたいと思い、「チャリティーコンサート」を開催致します。演奏する方々は毎年パワーアップしています。是非、素敵な演奏を聴きに来て下さい。

どうぞご来場下さいますようご案内申し上げます。

入場無料ですが、例年のように募金箱を設置して「世界の子どもにワクチンを日本委員会」に寄付をしたいと思いますので、皆様からのご協力をよろしくお願い致します。

記

日　時　11月21日（土）13時30分開場　14時開演

会　場　浄福寺本堂

出演者と曲目
クレア（フォークデュオ）
くすの木　わかれ歌　他
ピアス（歌謡曲&ポップス）
勝手にしやがれ　他
磯島沙弥、大田綾希（ソプラノとピアノ）
アンデスの笛（南米音楽）
コンドルは飛んでゆく　埴生の宿　他

後記

今後共皆様方からの本誌へのご要望・ご意見、そしてご投稿をお気軽にお寄せ下さいます様お願い申し上げます。

寺報編集委員会

編集　印刷　小田